

2016 TERMIS-AM Conference参加印象記

東京医科歯科大学生体材料工学研究所物質医工学分野

木村 剛

Tsuyoshi KIMURA

Tissue Engineering & Regenerative Medicine International Society Americas 2016 (TERMIS-AM 2016) が、2016年12月11日～14日の4日間、Manchester Grand Hyatt San Diegoにおいて開催された。大会長は、Anthony Ratcliffe先生、Robert Sah先生、Bill Tawil先生が務められた。天候にも恵まれ、20℃前後の暖かさでとても過ごしやすく、少し離れた海岸ではサーフィンを楽しむ人々が見られた。

大会のテーマは、“Tissue Engineering and Regenerative Medicine: Personalized and Precise Science, Engineering, and Translation”であり、「再生医療・組織工学が、医療市場で最も急速に成長しているセグメントであることを反映する大会にしたい」との思いが込められている。Keynote Symposium 3, Scientific Session 30, Awards Presentations 3, Poster Presentationなどのプログラムで構成され、全日程タイトなスケジュールであった。ただ、2015年度が世界大会であったことも影響していると思われるが、これまでの大会に比べ演題数、参加者が少なく、小振りな印象であった。

本学会は、組織工学をベースとした再生医療研究が主流であり、従来は細胞の足場材料の素材開発などが多くの発表を占めていた。今回は、足場材料や細胞を生体内に移植した際の生体反応、特にマクロファージを中心とした炎症および治癒に関する議論が中心であり、今後はこれらのイベントをいかに制御するかが議論の中心になると思われた。また、細胞追跡のためのイメージング技術、細胞操作のためのMEMS技術などの再生医療に関連する技術や、

オルガノイド、Cancerといった新しいセッションが立てられ、多様かつバランスの良いプログラムであった。

私たちの研究室のテーマの一つである、脱細胞化組織を用いた組織再生に関する研究は、Biomaterials and Decellularized Matricesとしてセッションが立てられていた。脱細胞化組織の治癒過程のイベントなどの基礎的な内容で、数例の臨床研究報告とともに、今後はどのようなアプリケーションに展開するかが議論の中心であった。また、欧米ではすでに臨床応用もなされていることから、脱細胞化組織がバイオマテリアルの一つとして認知されており、他のセッションにおいても脱細胞化組織が幅広く用いられているのが印象的であった。

Poster Presentationでは、従来の紙媒体の発表に加え、iPosterというタッチパネルを用いた発表形式が新しく導入された。閲覧者が希望の発表をタッチパネル上で選択し、自由に閲覧するシステムである。データを豊富に組み込むことができ、結果の図表などを拡大表示できることから、詳細かつクリアに閲覧することができた。また、iPosterの発表者によるショートトークセッションがポスター発表時間前に設けられ、ポスター発表のトレンドを包括的に知ることができた。ショートトークセッションの後には、発表者がタッチパネル前でプレゼンテーションを行い、密度の高い議論ができた(図1)。

懇親会は、会場に近接するミッドウェイ博物館である空母ミッドウェイの艦内で催された。フライトシミュレーターなどのアトラクションを体験でき、また、甲板では実物の戦闘機、ヘリコプターが展示され、一部は搭乗可能であった。サンディエゴは、映画『トップガン』の撮影地であり、私たちは映画のワンシーンのポーズを決めるなどして楽しんだ(図2)。

今年の2017 TERMIS-AM Conferenceは、Anthony Atala

■ 著者連絡先

東京医科歯科大学生体材料工学研究所物質医工学分野

(〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10)

E-mail. kimurat.mbme@tmd.ac.jp



図1 iPoster前にて。神戸祐介先生(右)と著者(左)



図2 懇親会にて。中村奈緒子先生(左), 神戸祐介先生(右)

先生が大会長を務められ, 2017年12月3日~6日の日程で Charlotte Convention Center, North Carolinaにおいて開催される。2018年には, 2018 TERMIS World Congressが9月4~7日の日程で京都国際会議場にて開催され, 京都大

学の田畑泰彦先生が大会長を務められる。

本稿の著者には規定されたCOIはない。